

F-REDD Newsletter

Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project
Nov 2015 - Oct 2020

持続可能な森林管理及びREDD+支援プロジェクト(F-REDD)

本プロジェクトの目的はREDD+に係る戦略策定、実施体制構築、実施のコーディネーションの支援と森林資源情報の整備などに係る能力の強化をはかり、それによってラオスの持続的な森林管理の促進に寄与することです。農林省森林局(M AF-DOF)を実施機関として協力しています。

ラオスとGCF

緑の気候基金（Green Climate Fund：GCF）^{*1}は、開発途上国の気候変動対策（緩和・適応活動）支援を目的したUNFCCCに基づく基金として2010年に設立が決定されました。その拠出表明額は2015-18年間で約103億米ドル、昨年の条約国会議では追加拠出が各国より表明されるなど、気候変動対策資金の中心的役割を担っています。今回は、ラオスの森林・REDD+のGCF活用とF-REDDの支援に関する状況をお伝えします。

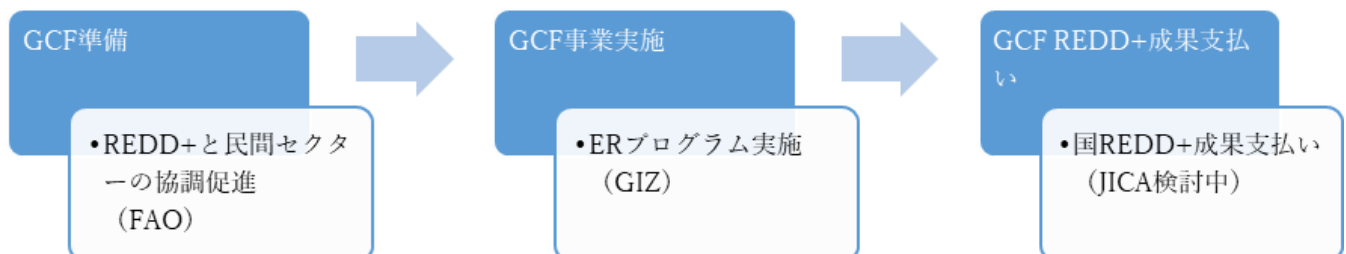


GREEN
CLIMATE
FUND

現在、GCF準備資金、実施資金、そしてREDD+成果支払いの3段階に対してFAO、GIZ、JICAがそれぞれ中心的な役割を担っています。

このうち、「REDD+と民間セクターの協調促進（FAO）」では、農林セクターやEmission Reduction (ER)プログラム（後述）における農業の「グリーン化」促進策の検討に対して、F-REDDの森林戦略や森林法改訂支援、REDD+支援との相乗効果を目指して連携して行きます。

「ERプログラム実施（GIZ）」では、FCPF炭素基金向けERプログラム^{*2}の実施にGCF資金を活用すべく、GIZを認証機関（GCF資金の申請者）としてJICA、ADB、FAOなどが資金協調した案件形成が進んでいます。これが実現すると、JICAは中央レベルおよび北部2県に対する技術協力を提供し、現場活動にはGCF資金が活用されるので、3～4倍の支援レバレッジに繋がると期待されています。



「国REDD+成果支払い（JICAによる申請検討中）」は、国レベルで2015-2018年のREDD+成果に対する支払いの獲得を支援するものです。F-REDDは国家RELとNFMS支援を主導しているほか、国REDD+戦略策定にも貢献するなど、REDD+成果支払い4要件のうち3つに対して重要な成果をあげています。2018年～2019年には第1回国家MRVとUNFCCCへのREDD+成果報告の支援に向けた準備を進めており、その結果がREDD+成果支払いへ繋がれば、いよいよREDD+の資金メカニズムが具現化します。

このように、ラオスのGCF資金活用戦略に合わせてF-REDDの支援も進化していますので、今後もその動きを報告して行きたいと思っております。

^{*1}: <https://www.greenclimate.fund/home> ^{*2}: F-REDDはFCPF炭素基金排出削減プログラムの策定と採択に貢献し、その実施を支援中です。過去のニュースレター9号及び10号をご覧ください。

OJT活動レポート

左：プロジェクトサイトにて生計向上活動（畜産）を視察した

右：左端からC/P職員、筆者、名村専門家、プロジェクトスタッフ



こんにちは。JICAの2018年度採用職員の安藤岳洋です。新人職員研修の一環として、本プロジェクトに10/1～4の間参加し、2015年までルアンプラバン県で活動したPAREDDプロジェクト*3の成果の確認などの活動を行いました。今回はその内容についてご報告します。

私が参加した活動は、成果4「ルアンプラバン県のREDD+準備が促進される」に関わる以下2つです。

① PAREDDプロジェクトサイトの視察

② 村落レベルでの森林減少・劣化を抑制するための手法である「PAREDDアプローチ」の普及に関する打合せ

① PAREDDでは、森林減少要因となっている焼畑に代わる生計向上活動をいくつか導入し、訪問した村では、その中から畜産を視察しました。家畜は、プロジェクト終了後も頭数が増加するなど、着実に活動が継続・拡大しているようでした。豚やヤギを嬉しそうに紹介してくれた村人の顔が印象的でした。今回の結果は、PAREDDアプローチを他の村に展開する際の知見として活用される予定です。

② F-REDDのプロジェクト対象地である県保護林周辺の各村へ、PAREDDアプローチを展開する際の指導方法を検討しました。カウンターパート（C/P）職員はプロジェクトへの理解が深く、会議をリードする一方で、名村専門家は会議の流れの調整に徹されていたのが印象的でした。同専門家によると、時間がかかってもC/Pが主体的に進められるよう促し、会議のリードも任せているとのことでした。こうした方針の下、着実に専門的知見や考える力を持った森林分野を担う人材が育成されていることを実感しました。

私はOJT後、本部にてラオスの水道セクターを担当しています。分野は少し違いますが、水道の水源は豊かな森が育くむことを忘れず、森林のことも想像しながら業務に取り組みたいと思います。

プロジェクトの皆さま、大変お世話になりました！

*3: (和)「ラオス森林減少抑制のための参加型土地・森林管理プロジェクト」

(英) Participatory Land and Forest Management Project for Reducing Deforestation in Lao PDR (通称) PAREDD
URL: <https://www.jica.go.jp/project/laos/006/outline/index.html>

成果毎の主な活動

成果1：中央政府の森林セクター支援

◆森林法改正案作成

成果2：REDD+実施による排出削減・吸収増加量の測定支援

◆第3回国家森林インベントリ開始準備
◆NFMS Country Needs Assessment策定

成果3：国レベルのREDD+支援

◆第6回REL/MRV技術会合開催
◆ERプログラム採択後のフォローアップ

成果4：ルアンプラバン県のREDD+準備支援

◆PAREDDアプローチ普及にかかる研修および活動
◆今乾季における森林減少モニタリング試行にかかる準備
◆ウドムサイ県及び対象郡、対象村におけるキックオフ会合の実施

コンタクト

プロジェクトオフィス

Kouvieng Street, Sisaket Village,
Chanthabouli District,
Vientiane Capital, Laos
Tel & Fax: 021(22)2536

プロジェクトHP

<http://www.jica.go.jp/project/laos/018/index.html>

次期四半期のイベント

Feb.

森林サブセクター作業部会会合

Mar.

第5回JCC開催

年次ワークショップ

第7回REL/MRV TWG



農林省
Ministry of
Agriculture and
Forestry (MAF)



独立行政法人
国際協力機構